

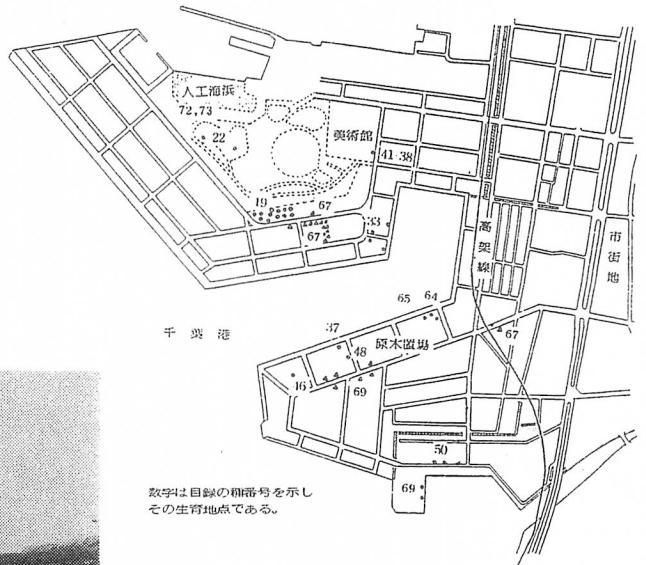
千葉港に見られる帰化植物 (1)

長谷部 光 泰* 鵜 沢 武 敏*
 猪 野 明 寿* 岩 瀬 徹**

千葉港と呼ばれる範囲は広いが、今回の報告は地図に示した地域について、1980年ごろから観察した記録である。ここには輸入原木を主とする集積場が続き、また各種の倉庫がある。美術館側には造成緑地やあき地があり、一次帰化地としての条件が具わっている。このあき地にワタが生育して花を咲かせていると、新聞に報じられたこともあった。綿花も輸入され、その油を精製する工場もある。



写真A 千葉港 原木置場付近



これまでわれわれが採集し、種の確認を行ったものをまとめたのが次の仮目録である。

これ以外にも数種類があるが、種が未同定であるためこの目録からは除いてある。またいわゆる旧帰化の種類は含めていない。

千葉港付近帰化植物仮目録(1982)

		生育状況
タデ科		
1. ハイミチャナギ	<i>Polygonum arenastrum</i> Boreau	〔I〕
2. オオケタデ	<i>P. orientale</i> L.	〔II〕
アカザ科		
3. ホコガタアカザ	<i>Atriplex hastata</i> L.	〔II〕
4. ウラジロアカザ	<i>Chenopodium glaucum</i> L.	〔I〕
5. タアリタソウ	<i>C. ambrosioides</i> L.	〔III〕
ヒユ科		
6. ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus patulus</i> Bertol	〔III〕
7. ホナガイヌビユ	<i>A. viridis</i> L.	〔III〕

8. イヌビユ ヤマゴボウ科	<i>A. lividus</i> L.	(I)
9. アメリカヤマゴボウ ナデシコ科	<i>Phytolacca americana</i> L.	(I)
10. ムシトリナデシコ	<i>Silene armeria</i> L.	(+)
11. オオシラタマソウ	<i>S. conoidea</i> L.	(+)
12. オランダミミナグサ アブラナ科	<i>Cerastium glomeratum</i> Thuill.	(III)
13. ハタザオガラシ	<i>Sisymbrium altissimum</i> L.	(I)
14. イヌカキネガラシ	<i>S. orientale</i> L.	(+)
15. カキネガラシ	<i>S. officinale</i> (L.) Scop.	(I)
16. クジラグサ	<i>Descurainia sophia</i> (L.) Webb. et Prant.	(+)
17. マメグンバイナズナ マメ科	<i>Lepidium virginicum</i> L.	(I)
18. セイヨウミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i> L.	(+)
19. ネビキミヤコグサ	<i>L. uliginosus</i> Schkuhr.	(I)
20. シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i> L.	(III)
21. ムラサキツメクサ	<i>T. pratense</i> L.	(II)
22. タチオランダゲンゲ	<i>T. hybridum</i> L.	(+)
23. シャグマハギ	<i>T. arvense</i> L.	(+)
24. クスタマツメクサ	<i>T. campestre</i> Schreb.	(+)
25. コメツブツメクサ	<i>T. dubium</i> Sibth.	(+)
26. シナガワハギ	<i>Melilotus suaveolens</i> Ledes.	(+)
27. シロバナシナガワハギ	<i>M. alba</i> Medicus.	(I)
28. コメツブウマゴヤシ カタバミ科	<i>M. lupulina</i> L.	(III)
29. ムラサキカタバミ トウダイグサ科	<i>Oxalis corymbosa</i> DC.	(III)
30. オオニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i> L.	(I)
31. コニシキソウ アオイ科	<i>E. supina</i> Rafin.	(III)
32. ワタ	<i>Gossypium indicum</i> Lam.	(+)
33. ハイアオイ アカバナ科	<i>M. pusilla</i> Smith.	(+)
34. マツヨイグサ	<i>Oenothera stricta</i> Ledeb. ex Link.	(II)
35. アレチマツヨイグサ	<i>O. biennis</i> L.	(III)
36. コマツヨイグサ ムラサキ科	<i>O. laciniata</i> Hill.	(III)
37. シベナガムラサキ	<i>Echium vulgari</i> L.	(+)
38. ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i> L.	(I)
39. アメリカイヌホウズキ	<i>S. americanum</i> Mill.	(II)
40. テリミノイヌホウズキ	<i>S. photeinocarpum</i> Naka. et Oda.	(II)
41. センナリホウズキ	<i>Physalis angulata</i> L.	(+)

ゴマノハグサ科		
42. ビロードモウズイカ	<i>Verbascum thapsus</i> L.	{+}
43. タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i> L.	{II}
44. オオイヌノフグリ	<i>V. persica</i> Poir.	{II}
オオバコ科		
45. ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i> L.	{III}
46. *ヤグラオオバコ	<i>P. sp.</i>	{I}
キク科		
47. セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i> Weber.	{III}
48. ブタナ	<i>Hypochoeris radicata</i> L.	{+}
49. オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i> (L.) Hill.	{III}
50. オオアザミ (マリアアザミ)	<i>Silybum marianum</i> Gaert.	{+}
51. ホウキギク	<i>Aster subulatus</i> Michx.	{III}
52. ヒロハホウキギク	<i>A. sp.</i>	{II}
53. アレチノギク	<i>Erigeron bonariensis</i> L.	{II}
54. オオアレチノギク	<i>E. sumatrensis</i> Retz.	{III}
55. ヒメムカシヨモギ	<i>E. canadensis</i> L.	{III}
56. ヒメジョオン	<i>E. annuus</i> (L.) Pers.	{III}
57. ヘラバヒメジョオン	<i>E. strigosus</i> Muhl.	{I}
58. ハルジオン	<i>E. philadelphicus</i> L.	{III}
59. コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> L.	{II}
60. シロノセンダングサ	<i>B. pilosa</i> L. var. <i>minor</i> (Blume) Sherff	{II}
61. アメリカセンダングサ	<i>B. frondosa</i> L.	{II}
62. セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i> L.	{III}
63. イヌククイモ	<i>Helianthus strumosus</i> L.	{II}
64. ベニバナボロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i> (Benth.) S. Moore	{+}
65. ダンドボロギク	<i>Erechtites hieracifolia</i> (L.) Raf.	{+}
66. ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i> L.	{II}
67. シオザキソウ	<i>Tagetes minuta</i> L.	{II}
68. チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium purpureum</i> L. var. <i>spathulatum</i> (Lam.) Baker.	{II}
69. *ヒロハノチチコグサモドキ	<i>G. spicatum</i> Lam.	{I}
70. ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiaefolia</i> L. var. <i>elatior</i> (L.) Desc.	{III}
71. クワモドキ	<i>A. trifida</i> L.	{+}
72. オオオナモミ	<i>Xanthium canadense</i> Mill.	{I}
73. イガオナモミ	<i>X. italicum</i> Moretti.	{II}
イネ科		
74. ウマノチャヒキ	<i>Bromus tectorum</i> L.	{I}
75. イヌムギ	<i>B. catharticus</i> Vahl.	{III}
76. シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i> Poir.	{III}
77. シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i> (Schrad.) Nees.	{II}
78. カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i> L.	{II}
79. カラスムギ	<i>Avena fatua</i> L.	{I}
80. セイバンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i> Pers.	{II}
81. ムギクサ	<i>Hordeum murinum</i> L.	{II}

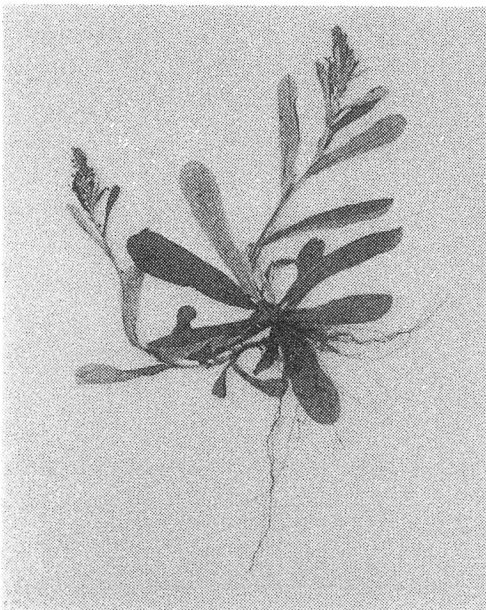
- 生育状況〔 〕内は次による。
- 〔Ⅲ〕 生育が多い, または広く分布する。
 - 〔Ⅱ〕 生育がやや多い, または分布がやや広い。
 - 〔Ⅰ〕 生育が少ない, または局所的に分布する。
 - 〔+〕 生育がまれ。

観 察 ノ ー ト

① *Gnaphalium* について

1979年, 美術館付近の堤防わきで種不明のロゼットを採集し, これを学校の圃場へ植えておいたところ5月ごろ茎をのぼし花をつけた。その様子から *Gnaphalium* であることはわかったが, チチコグサモドキとは違っている。その後圃場ではさかんにふえ, 夏から秋までも花を咲かせたりする。しかし圃場外へはほとんど出ていかなかった。

種名不明のままだったが, 最近標本を長田武正博士に見ていただきご意見をうかがうことができた。それによると, この属は同定がかなり厄介であり, しかもいくつか各地に広まりつつある。標本のもは, 京都大学の小山博滋博士によって一応学名が *Gnaphalium spicatum* Lam. に当てられており, 和名は数年前からヒロハチチコグサモドキと呼ばれているので, それを採ることとする。ただし, これは確定したことではなく, いずれ再検討の上, 正式



写真B ヒロハチチコグサモドキ

発表されるであろうということであった。

写真Bがそれで, ロゼットは属中で最大になり, 葉は幅が広く, 表面は無毛に近い。

これとは別に, 茎の上部が数本に分枝して花序をつける *Gnaphalium* も生育している。まだ種名がわからないため, 目録には入れていない。

② オオアザミ (マリアアザミ)

出洲港北側の道路わきに4~5本がまばらに生育していた。7~8月ごろ開花。かつて羊毛工場で原毛に混入してきた種子が成長したのを見たことがある。

③ シオザキソウ

飼料倉庫の周辺(地図の67)に高被度で生育していた。道路をはさんで周辺の埋立地にも少数ながら侵入している。このあたりでは比較的よく見かけるが, 千葉県としては分布の少ない種類である。

④ オナモミ類

果実とその刺の形から3型ほどあると思われるが, くわしいことはまだ不明。オオオナモミとイガオナモミだけをあげておいた。

⑤ ヤグラオオバコ (写真B)

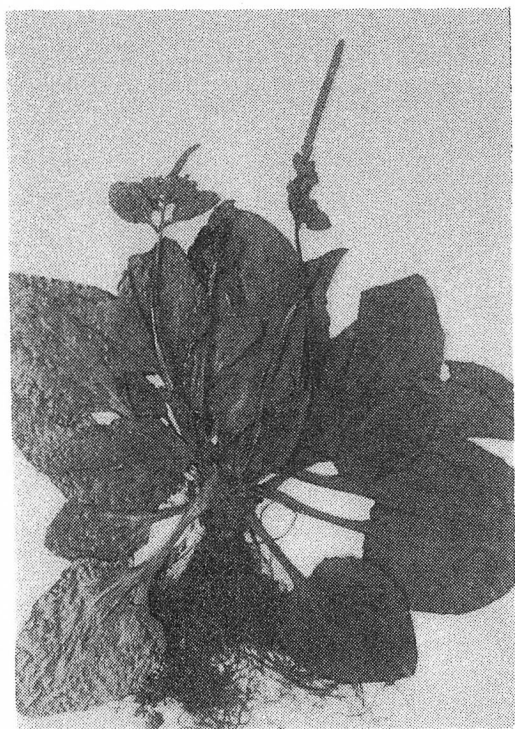
オオバコは花茎に葉のないロゼット型植物であるが, これは春花茎の上部, 穂の下の包葉が大きくなって葉のように見える。原木置場(図の46)に大形株数本と小形株数十本が生育していた。寺崎植物図譜によると, ヤグラオオバコはオオバコの奇形品とされ, 1936年採集の記録がある。しかし今回のものは帰化してきたような印象が強い。セイヨウオオバコの一型とも考えられるが, まだはっきりしない。一応ヤグラオオバコとし, 学名は不詳のまま目録に加えた。

⑥ シベナガムラサキ (写真D)

原木置場付近に少数生育していた。花は紅紫色でおしべが花冠の外へ長く突出する。種子はめったに熟さない。千葉県では初の記録と思われる。

⑦ ネビキミヤコグサ

美術館裏の埋立地に生育。長い走出枝をのぼし,



写真C ヤグラオオバコ

直径1 mほどのコロニーを作っていた。付近にはシロツメクサが多い。

⑧ トガリバツメクサ

美術館わきのグリーンベルトに生育。花序は、帰化植物図鑑の図より卵形に近い。

⑨ タチオランダゲンゲ

美術館裏の埋立地に直径40 cmほどのコロニーがあった。

⑩ クジラグサ

街路樹の根もとに1株だけ見られた。



写真D シベナガムラサキ

⑪ ムギクサ

道路沿いや建物のまわりに群生している。

参 考 文 献

- 長田武正 原色日本帰化植物図鑑 保育社
 寺崎留吉(奥山春季編) 寺崎日本植物図譜 平凡社
 奥山春季 日本植物ハンドブック 八坂書房
 千葉県生物学会編 新版千葉県植物誌 井上書店